

## 英語 (English)

### 主題別英語 (Thematic English)

(医 ((医 C)1 年))

小野原 信善・非常勤講師 / 全学共通教育センター

1 単位 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

**【授業の目的】** 現在のグローバル化社会において、世界の動きや学術的情報をいち早く知るためには英語を用いてコミュニケーションを行う能力は不可欠であろう。そのために本演習では英文を確実に音読しながら、言語と文化の関係を探る。

**【授業の概要】** 全員で英文を音読した後、順番に、英文を訳す。その後、全員で、内容について討論する。そうする中で、世界の諸文化に触れ、我が日本と日本人の文化、アイデンティティ等について考える。

**【キーワード】** 文化、多様性、アイデンティティ

**【先行科目】** [先行科目]

**【関連科目】** [関連科目]

**【到達目標】** 格調高い英文を読み、高度の英語力を養いつつ、外国人の価値観や信念形成の仕方を学ぶと共にわれわれ自身のアイデンティティ形成の仕方を探る。

**【授業の計画】**

1. 文化の疑念
2. アイデンティティ
3. 文化の多様性
4. 価値観
5. 信念

**【教科書】** Beneath the Surface (Seibido) Paul Stapleton 著

**【参考書等】** 小野原信善・大原始子編著 (2004) 『ことばとアイデンティティ』三元社

**【成績評価の方法】** 学期末試験、平素の授業への取り組み状態、出席状況等を、総合的に判断する。本授業は演習科目であるので、出席は大前提。1 回の欠席で 8 点減点されるので注意されたい。

**【再試験の有無】** 無 (平常の授業を重んじるため)

**【受講者へのメッセージ】** 本演習はテーマ別クラスである。高等学校で体験したような、単に英文を日本語に置き換えるだけの作業ではないことに留意されたい。本文を熟考し文化および文化を創り上げた人間を考察することが目的である。日頃の授業で積極的に発言して欲しい。

**【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221162>

**【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】**

⇒ 小野原 . (オフィスアワー: 毎週月曜日午後非常勤講師控え室)

# English

## Thematic English

(医 ((医 C)1 年))

Nobuyoshi Onohara · PART-TIME LECTURER / CENTER FOR GENERAL EDUCATION

1 unit 後期 月 7・8

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

**Target** 現在のグローバル化社会において、世界の動きや学術的情報をいち早く知るためには英語を用いてコミュニケーションを行う能力は不可欠であろう。そのために本演習では英文を確実に音読しながら、言語と文化の関係を探る。

**Outline** 全員で英文を音読した後、順番に、英文を訳す。その後、全員で、内容について討論する。そうする中で、世界の諸文化に触れ、我が日本と日本人の文化、アイデンティティ等について考える。

**Keyword** 文化, 多様性, アイデンティティ

**Fundamental Lecture** 〔先行科目〕

**Relational Lecture** 〔関連科目〕

**Goal** 格調高い英文を読み、高度の英語力を養いつつ、外国人の価値観や信念形成の仕方を学ぶと共にわれわれ自身のアイデンティティ形成の仕方を探る。

**Schedule**

1. 文化の疑念
2. アイデンティティ
3. 文化の多様性
4. 価値観
5. 信念

**Textbook** 〔Beneath the Surface (Seibido) Paul Stapleton 著〕

**Reference** 小野原信善・大原始子編著 (2004) 『ことばとアイデンティティ』三元社

**Evaluation Criteria** 学期末試験、平素の授業への取り組み状態、出席状況等を、総合的に判断する。本授業は演習科目であるので、出席は大前提。1 回の欠席で 8 点減点されるので注意されたい。

**Re-evaluation** 無 (平常の授業を重んじるため)

**Message** 本演習はテーマ別クラスである。高等学校で体験したような、単に英文を日本語に置き換えるだけの作業ではないことに留意されたい。本文を熟考し文化および文化を創り上げた人間を考察することが目的である。日頃の授業で積極的に発言して欲しい。

**Contents** 〔<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221162>〕

**Contact (Office-Hour, Room, E-mail)**

⇒ Onohara . (Office Hour: 毎週月曜日午後非常勤講師控え室)